北海道医報

ISSN 0913-0217　2025.4.1. 第1279号

発行人　北海道医師会長　松家　治道
編集人　情報広報部長　橋本　洋一

発行所　北海道医師会
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL (011) 231-1432　FAX (011) 221-5070
URL http://www.hokkaido.med.or.jp/
E-mail info@office.hokkaido.med.or.jp
頒価 1部 275円（税込）

季節風

The personal is political.

情報広報部副部長　寺本（てらもと）　瑞絵（みずえ）

「The personal is political.（個人の問題は社会の問題である）」というフレーズは、第二波フェミニズム運動におけるスローガンであったが、現在では、個人が直面する困難や課題は、実は社会構造や制度と深く結びついていることを示す概念として広く用いられている。本フレーズを初めて耳にしたとき、まさに医療と医療を取り巻く社会のことだと思った。虐待、自殺、未受診妊婦、医師の過重労働、診療科の偏在、出産育児に伴うキャリア形成などの問題は今や、患者や医療従事者の個人だけの責任ではなく、社会全体で考えるべき重要課題である。

さて、北海道は全国的に見ても勤務医の割合が高く、北海道医師会勤務医部会の取り組みは全国的に知られるところである。平成28年には若手医師専門委員会が設置され、若手医師間のネットワーク構築や医学生・若手医師向けのセミナー、組織の活性化などが活発に行われてきた。しかし、勤務医部会内での活動であり、若手開業医と意見を交わす機会は多くなく、そのため先日初めて「若手開業医と若手医師専門委員会委員との懇談会」が開催され、診療科や世代を超えた活発な意見交換が行われた。参加された若手開業医の先生方のポテンシャルの高さや独自性は非常に興味深く、これからの北海道の医療の発展が期待される会であった。また、改めて自分自身の医師会活動を振り返る機会を得た。

私が北海道医師会の役員として活動するようになり、３年半が経過する。元々臨床一筋で患者のための技術向上や資格取得、後輩育成、労働環境整備に努めてきたため、当初は戸惑いもあったが、常任理事として行政会議に参加することで、大学や病院勤務だけでは得られなかった視点で、医療政策を考えるようになった。役職が人を育てるとは、まさに視点の変化をもたらし、視野を広げることだと実感している。また、医師会活動により、改めて思ったことは、より中央で伝えることの力である。

バタフライエフェクトという言葉を知っているだろうか。「蝶がブラジルで羽ばたくと、アメリカで竜巻が起こるかもしれない」という、小さな出来事が大きな変化を引き起こすことを示す概念である。医療現場でも、一人の患者や医療従事者の問題提起が、大きな制度改革につながることがある。例えば、在宅医療・訪問診療の充実、女性医師の勤務環境の改善などは、現場の声が発端となり、政策に反映されてきた。近年では、ＳＮＳやメディアを活用した市民や患者の発信が、政策に影響を与えることもある。しかし、やはり個人の声だけでは変化を起こすのは難しいのが現状だろう。

確実に現場の声を届けるためには、医療政策に意見を述べることができる団体の中で発信することが重要である。北海道医師会や日本医師会の委員会に従事することにより、個人では届きにくい声を集約し、より中央で意見を述べる機会を得ることができると改めて分かった。直接ではないにしても、政府や関係機関により近いところへ北海道の声を届けることの意義は大きい。多様な意見を吸い上げるためには、あらゆる立場の多くの医師の声が必要である。

また、先日の懇談会において、「医師会に入るメリットが伝わりにくい」という指摘があった。学会は学術研究の促進、専門知識の発展を目的とする。一方、医師会は「国民の生命と健康を守る」ことを使命とし、医療制度の運営や医師の権利保護（勤務環境の改善や医師の労働条件の向上）、地域医療の推進などを担う。学会が医学の発展を牽引し、医師会がその成果を社会に適用することで、医療の質向上や制度改革が実現される。特に、地域医療構想や医師偏在対策、働き方改革などが進められる現在、国民を支えるための医療をいかに改革すべきかを議論し、政府との交渉で中心的な役割を担うのは医師会である。医療に係る規律・倫理を熟知し、医療の専門家として、有志の力を結集できる組織は医師会をおいて他にないと言ってよいであろう。また、それゆえに、組織力強化は必須である。医師会の具体的なメリットとしては、政策決定への関与の他、最新医療情報の取得、法的サポート、ネットワーク形成、経済的メリット、人脈形成などの利点を享受できる点が挙げられる。

新年度を迎え、９４８６人の医師が医師国家試験に合格し、新たな仲間として加わる。「The personal is political.」個々の問題を社会全体で解決するためには、老若男女、様々な医師の意見が必要である。より多くの若手医師が経験や活躍の機会を得て、医政への理解を深め、医師会活動に参画することが期待される。